

## 子どもの発達要求に応える活動と学びを 追求しよう

### 一 分科会のまとめ

瓜屋 讓

#### 1. 子ども、学校、保護者の状況

○この二年ぐらいの間にいわゆる「強い指導」が入り込んでい  
る。学校祭の演劇の舞台でも「制服を着崩してはいけない」  
という主張があり、それに疑問を持たない教師が増えている。  
(中)

○大学生を見てみると、自立を就労だけに限定しないで、家族  
関係などの悩みに寄り添う必要を感じる。バイトのために、  
朝早い講義に出られなくて単位を取れないケースも見られる  
が、バイトを控えるのは難しい現実がある。(大)

○要保護、準要保護が5割の学校。子どもたちは様々な息苦し

さを学校で表出している。これに対して、市議会や商工会か  
ら「学力」向上を条例で進める提案がされている。勉強が楽  
しい、自分もできるんだと感じさせる授業ができにくくなっ  
ている。(小)

○職員会議で発言なしの傾向が年々強まっている。言ってもし  
ようがないと、議論する力がなくなっていることの両面があ  
る。生徒の自治活動が形骸化し、集団の中で育てる実践が厳  
しくなっている。(高)

○校下に児童養護施設がある。中学生の入所が増える傾向があ  
り、施設で暴れ一時保護になるケースが目立つ。いかに信頼  
関係をつくるかが課題である。(小)

○漁村にある学校。子どもへの対応を始め、配慮が感じられな  
い。学習発表会での携帯の音、おしゃべりがうるさい。ひと  
り親家庭、DV<sub>レ</sub>に加え、殺人事件も起こった。学校でき  
ることに限界を感じる。(小)

○漁村地域。振興局の職員が異動してきて、今までと違う刺激  
が得られたと喜んでいたら、地元の住民からの格差に対する  
やっかみのような攻撃が出て、家族を支える必要が出てきた。  
(小)

## 2. 全道の実践の状況（レポートから）

にしているのはいい。

（1）「子どもの荒れをかんがえる」

道退教空知（匿名希望）

（2）「保護者の不安にどう向き合うか」

江差町立南が丘小学校・斉藤 晴三

## 【状況】

六年年の指導困難学級の報告。五年時に崩れ始める。プロチームの下部組織の少年団に所属し、土日は本州まで遠征する生活を送る男子が、授業にほとんど参加せず、いたずらなど授業妨害。注意すると、「うるせェ！死ぬ」と口答え。これに周りの子どもたちが同調していく。サポートに入った支援員は、担任が孤立しないように教師集団及び保護者との共同を呼びかけている。どんな手だてが考えられるか。

## 【質疑・討論から】

- ・この子の保護者はどんな考え方か？父親はスポーツ留学の経験があり、指導を徹底しようとする。担任の力量不足を批判。
- ・他の保護者の協力を得て一緒にやる。
- ・この子をどう理解するかがカギでは。
- ・担任の話を聞きながら、担任が子どもたちと向き合えるよう

## 【状況】

長い教職の中で初めて一年生の特別支援学級を担任。翌年、その二年生の協力学級の担任になる。そこに登場するのが、前年のPTA役員の母親。今年の役員を差し置いて我が物顔で仕切るために、ほかの親は引いていく。担任としてどう対応したらいいのか。

## 【質疑・討論から】

- ・実践者の、母親に寄り添う姿勢、その人を孤立させないスタンスはいい。しかし、ときには一つのことにとこだわらず受け流すことも必要ではないか。
- ・子どものことを伝えているか。子どもへの援助を通じて、上手にできなくてもいいことを伝えていく。
- ・自分のやっていることが認められずに自己肯定感を持っていないのではないのか。この母親の話を聞くとともに、ほかの親の不満も聞き取っていくことが必要。

(3) 「がんばれ!6年生!」

遠軽町立生田原小学校・若狭美喜子

【状況】

指名したら答えるのに主体的になれない五年生。最高学年になつて困らないように、リーダーとして頑張れる力を育てようと、様々な活動に取り組む。六年生を送る会、一年生と仲良くする会、児童会、学習発表会を経験する中で、施設から通学する子も一緒に力をつけていった。

【質疑・討論から】

・施設でのルール違反が、コウタから野球を取り上げ、頼りにしていた施設職員の退職につながったショックは大きいのでは。  
は。

・「がんばれ」は、全部ダメではない。下級生から喜ばれたり、努力を受け止めてもらつて自信につながる場合もある。

・どこまで「がんばれ」なのか。追い込んでいくのではなく、やりたい、やりたくないという思いを子ども同士が受け止め合う場が必要では。

(4) 「今、尚栄高校がおもしろい!」生徒会活動から学校づくりを考える」

美唄尚栄高校・山下 正浩

【状況】

生徒会活動が学校を変える力になるという視点から、集団意識の向上と生活の充実を掲げ、専門委員会、実行委員会、クラブの自治を育てるために、生徒会執行部とそれぞれの活動を支持してくれる勢力を育てる取り組みを展開。そのために、生徒総会、評議を重視し、「面倒くさく」進めることを謳っているのが特徴である。

【質疑・討論から】

・自治会を持っていない大学が多い中で、公の場で話す経験は、大人になつた時に社会との関わりで大きな意味を持つ。

・自治の種が育っていく自由な活動が生きている。ここから、授業問題、財政問題に切り込むという視点も面白い。

・誰も生徒会の持ち手がない中で生徒会顧問が孤軍奮闘しているが、教職員が生き生きできる取り組みでもある。

(5) 「生徒会の校則改正にかかわる取り組みについて」

室蘭東翔高校・本田由希子

【状況】

職員会議で時期尚早と判断されたカーディガン着用の校則改正要求がいかんにして実現したか。生徒会執行部のリーダーシップ、二回に渡るキャンペーン、クラス決議で、生徒の意識、教職員の見方が変わっていった。

【質疑・討論から】

- ・教師のいうことを聞かない生徒が、生徒同士で決めたルールを守るかという不信をひっくり返した意味は大きい。
- ・生徒の総意が集まれば校則は変えられるという経験は、今後に生きる教訓である。それだけ生徒自身が成長した証といえる。

(6) 「みんなで平和な世界をつくろう」は

子どもの学びと集団の取り組みが見える中学校の合唱コンクールを題材にした実践だったが、時間切れで読むだけで終了した。